

Ⅷ WebNACCS<3>

平成27年10月13日

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社



WebNACCSにおける利用者ID等について（新規提案）

1. WebNACCSにおける利用者ID

WebNACCSを利用するための利用者IDについては、インターネット接続とその他の接続とを区別する必要があるため、netNACCS同様、利用者IDの識別番号3桁目を英字とする。従って、現在、netNACCSを利用している利用者の場合は、特段の手続き等を行うことなく、既存の利用者IDによってWebNACCSを利用することが可能となる。（netNACCSを利用していない利用者が、新たにWebNACCSを利用する場合は、新たな利用者IDの取得が必要となる。）

2. WebAPS（動植物検疫関連業務のWeb業務）における利用可能IDの見直し

WebNACCSの提供業務には、動植物検疫関連業務も含まれるが、現状では、インタラクティブ処理方式の利用者IDでWebAPSが利用可能となっている。

第6次NACCSにおいては、WebNACCSにおける利用者IDのチェックを行うことから、WebAPSにおいても同様のチェックを行うこととしている。このため、現行NACCSにおいて、インタラクティブ処理方式及びメール処理方式の利用者IDで、WebAPSを利用している利用者については、新たに利用者IDを取得することが必要となる。

参考 接続処理方式にかかる利用者IDの違いによるWebAPSの利用可否

接続処理方式	現行（第5次）NACCS	次期（第6次）NACCS
インタラクティブ	○	×
メール	○	＝
netNACCS	○	○

備考 現行では、接続処理方式を問わずにWebAPSの利用が可能となっているが、第6次NACCSでは接続処理方式による制限を新たに設ける。
例えば、WebAPSでのみ実施可能な動物検疫所に係る「検査場所指定申請」業務や、NACCSでも提供されている「輸入畜産物検査申請入庫状況登録（ISS01）」業務をWebAPSで実施している利用者については、新たにnetNACCS処理方式の利用者IDを取得することが必要となる。